

# 池江選手が教えてくれたこと

～ありのままの自分でいられる社会を目指して～



浅口市・金光学園中3年 田中 希莉子



短髪姿を披露した競泳女子の池江璃花子選手（本人のインスタグラムから）

## 池江選手が短髪姿披露

「ありのままを見て」

白血病と闘う競泳女子の池江璃花子選手(19)は18日、写真共有アプリ「インスタグラム」などで「みなさんに初めてこの姿をお見せします」とコメントして短髪姿を披露した。昨年2月に病気が判明した後、抗がん剤の影響で髪が抜けていた時期があった。新たにスポンサー契約を結んだアロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(P&G)のスキンケアブランド「SK-II」への協力による企画で、池江選手は「今のありのままの自分を見てもらいたい」という私の気持ちを、SK-IIは大事にしてくれました」とつぶやいた。

新型コロナウイルスについては、現在、世界中が不安で辛い日々を送っています。このメッセージが、アスリートの仲間にとっても、また同じように苦難と戦っている誰かにとっても、小さな希望になればうれしいです」とした。

2020年5月19日付 山陽新聞

### 寸評

白血病の影響で短髪となった池江璃花子選手の姿と、自分自身が行ったヘアドネーションの経験から、「ありのままの自分」を認め合う社会について考察を深めています。

私は今も二回目のヘアドネーションのために髪を伸ばしている。ウィッグの必要が病氣と闘いながら日常生活を楽しく送れるための小さな一歩を踏み出せるように、そしてその子たちがありのままの自分でいられるあたたかい社会になるようにと願いを込めて。

取材したときに知ったNPO Japan Hair Donation & Charityの理事長渡辺さんのメッセージの中に、「私たちが理想とする『必ずしもウィッグを必要としない社会』』という言葉がある。記事の中で池江選手が言っている「今のありのままの自分を見てもらいたい」という言葉はこのことを表している。ウィッグをつけてもつけなくても、自分は自分。あの微笑みは、池江選手がウィッグをはずし、ありのままの自分を愛する心の強さを手にした証なのだ。池江選手の行動はどんなヘアスタイルの人も、個性として認め合って生活できる社会の実現への第一歩だと思ふ。

新聞記事のタイトルと一緒に目に入ってきたのは、目線を上に強く優しく微笑む競泳女子の池江璃花子選手。白血病と診断され、治療中に抗がん剤で髪の毛が抜け短髪姿だった時の写真を、自身のインスタグラムなどで公開した。不思議なことには、池江選手のその微笑みが、それまでに見たことのあるウィッグをつけている池江選手よりも輝いて見えた。

私はこれまでにヘアドネーションをしたことがある。ヘアドネーションとは病

でもう一度ヘアドネーションの取り組み

なのか。私は家族と食事の時に話したり、自分

ウィッグを提供するために、伸ばした髪の毛を寄付することだ。私は小学生の時の取り組みを壁新聞にまとめ、取材先美容院や学校、母のお店などで掲示してもらったことがある。理解し協力してくれる人が増えれば、必要な子どもたちのウィッグをたくさん作ることができ、その子たちが笑顔になれると思ったからだ。しかし、ウィッグをつけていなくても池江選手は微笑んでいた。それはなぜ

について思い返したりしている考えだ。兄は「有名人が長い髪を切って寄付したのはよく話題になるけど、髪の毛を失っている有名人がそのまま表に出ることってあまりないよね」と言っていた。母は「ものすごく勇気を出したんだろうね」と感動していた。池江選手の行動に全国の人が勇気づけられ、同じような境遇の人にはより大きな力になっただろう。